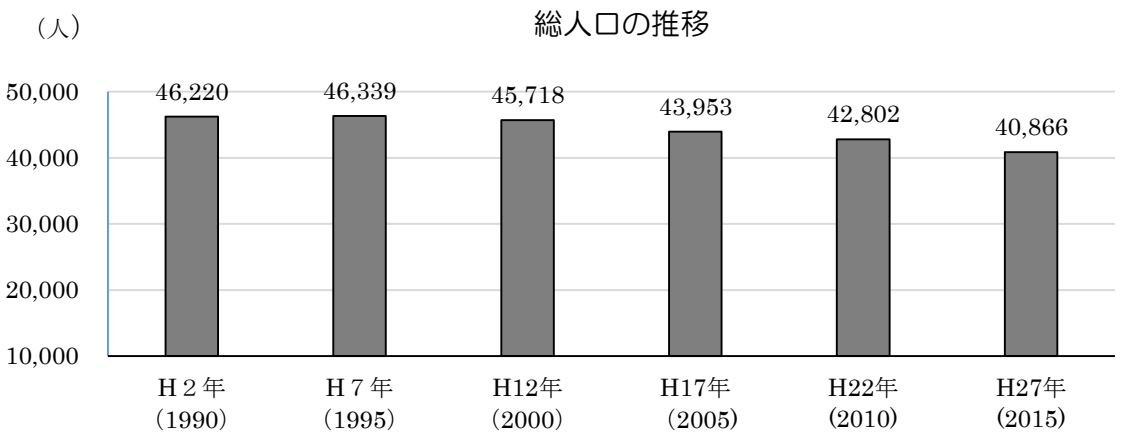
第３章　中間評価の概要

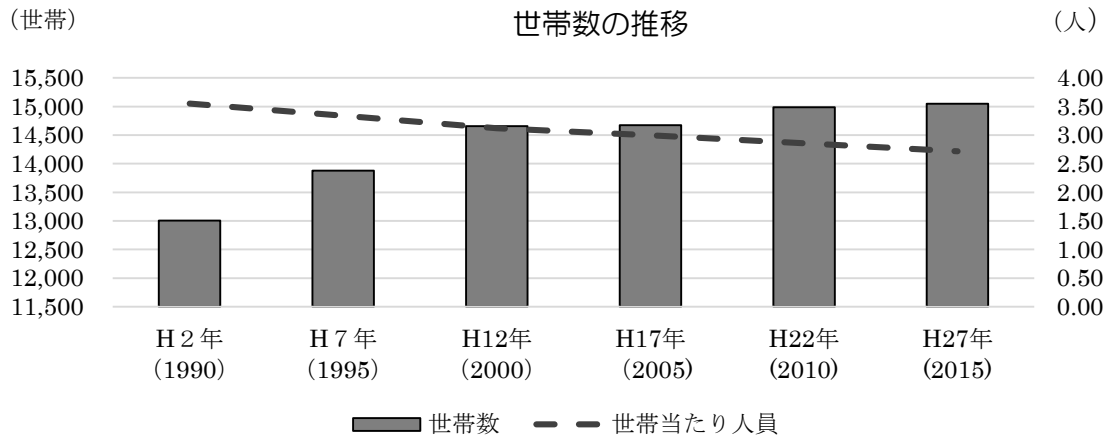
総　論

１　西脇市の状況

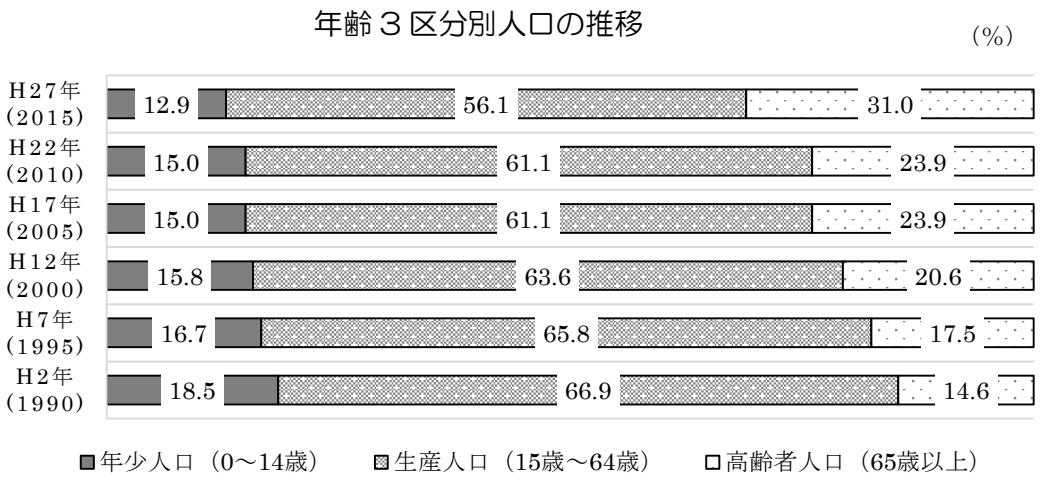
西脇市は、少子高齢化や核家族化が進行し、１世帯当たりの平均人員が減少しています。また、高齢者夫婦のみ世帯や高齢者単身世帯が増加し、高齢化率は平成 27（2015）年には 31.0%となっています。介護保険においては、要介護認定者数は増加傾向にあり、要介護３、要支援２の伸び率が高くなっています。また、平均寿命（０歳児が平均して何歳まで生きるかを示したもの）と健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の差は、要支援の状態を含めると男性 14.5 歳、女性 19.4 歳あり、要介護２～要介護５の中重度の介護が必要な期間は男性 1.6 歳、女性 3.4 歳でどちらも県より長くなっています。



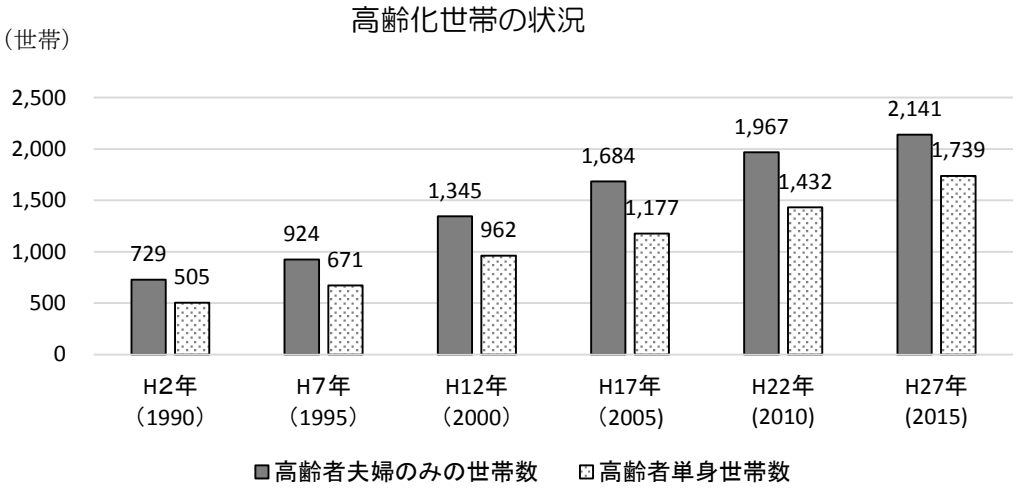
（資料　国勢調査）



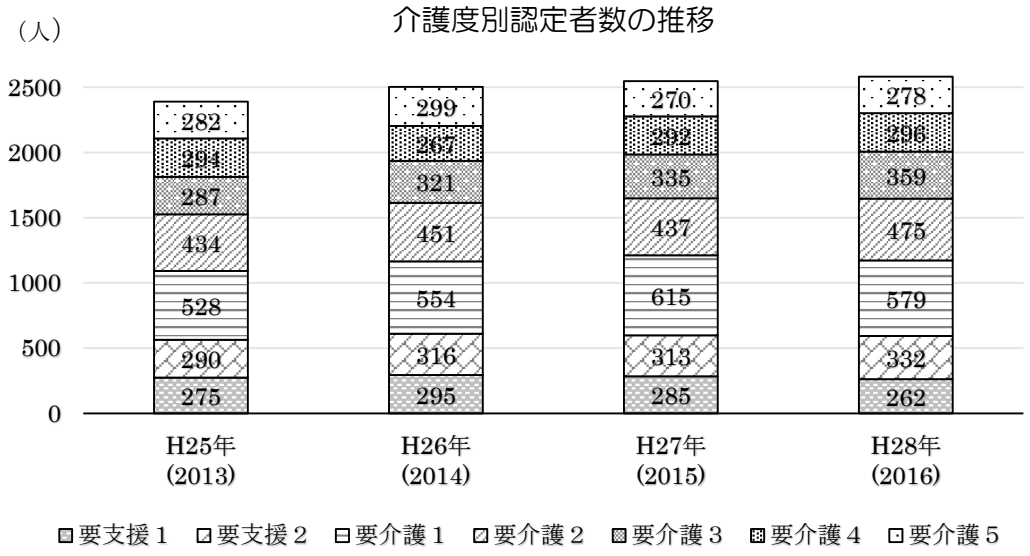
（資料　国勢調査）



（資料　国勢調査）

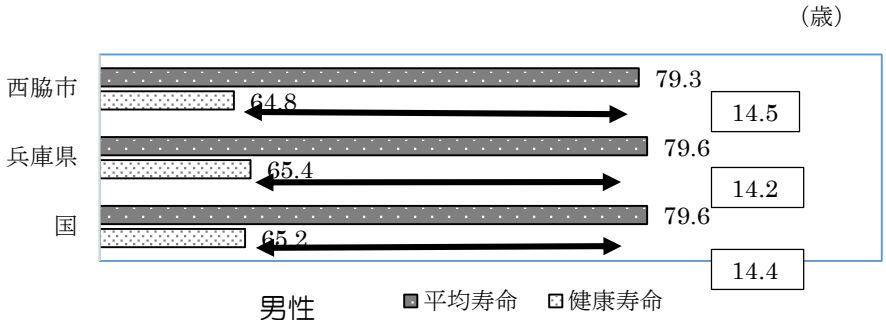


（資料　国勢調査）

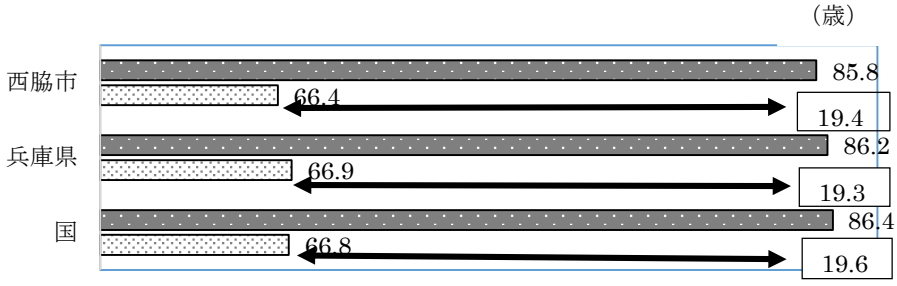


（資料　第７期西脇市高齢者安心プラン）

平均寿命と健康寿命



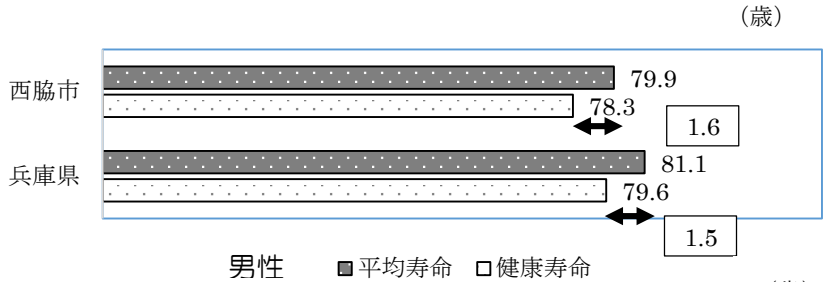
男性　■平均寿命　□健康寿命



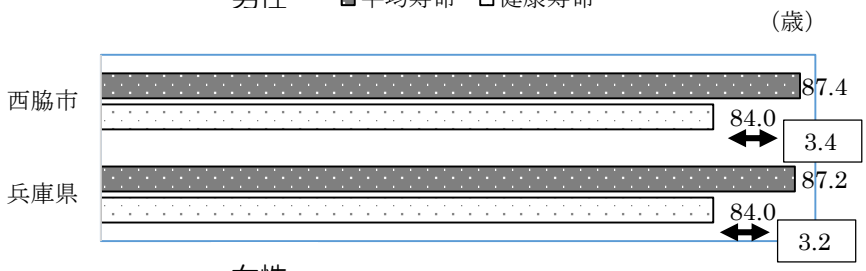
女性　■平均寿命　□健康寿命

※平均寿命　０歳児が平均して何歳まで生きるかを示したもの
※健康寿命　健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。介護保険の要支援１～要介護５を不健康（要介護）な状態とする。

（資料　KDB システム地域の全体像の把握）



男性　■平均寿命　□健康寿命

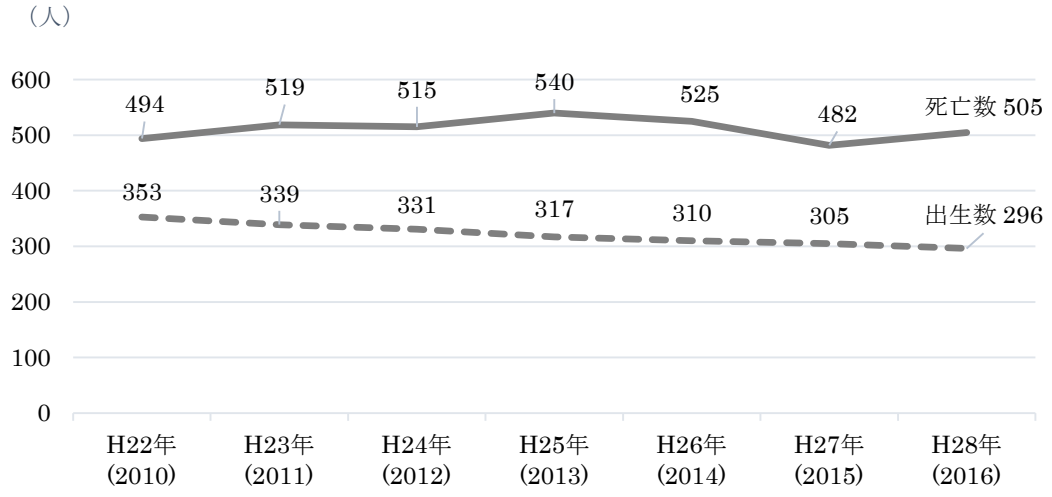


女性　■平均寿命　□健康寿命

※平均寿命　０歳児が平均して何歳まで生きるかを示したもの
※健康寿命　日常動作生活が自立している期間。介護保険の要介護２～要介護５を不健康な状態とする。
（資料　厚生労働省が平成 24（2012）年９月に示した「健康長寿の算定方法の指針」と「健康長寿の算定プログラム（2015）」に基づき、兵庫県が算出　※国の平均はなし）

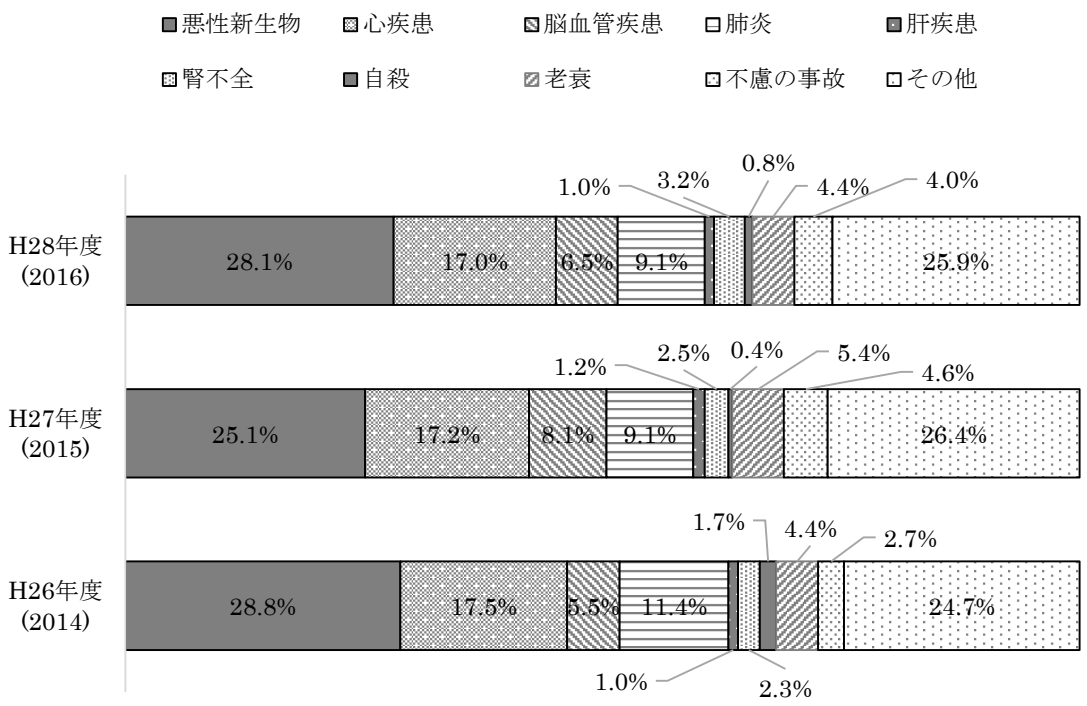
出生数は減少しており、死亡数は 500 人前後で変動しながら推移しています。死亡原因別では、１位が悪性新生物、２位が心疾患、３位が肺炎、４位が脳血管疾患となっており、生活習慣病が上位を占めています。

出生数と死亡数の推移



（資料　兵庫県保健統計年報）

死亡原因別死亡率の割合



（資料　兵庫県保健統計年報）

２　計画に定めた数値目標についての評価

本計画では、推進状況を把握し、展開していくために 31 項目の数値目標を設定しています。中間評価では、これらの数値目標の達成状況について、アンケート調査の結果や、事業の取組状況等により評価を行いました。

分野	項目数	判　　定		
		A	B	C
からだの健康	14	0	5	9
			35.7%	64.3%
食の健康	9	0	3	6
			33.4%	66.6%
歯の健康	4	2	2	0
		50.0%	50.0%	
こころの健康	4	2	2	0
		50.0%	50.0%	
総合計	31	4	12	15
		12.9%	38.7%	48.4%

※　評価判定基準

Ａ：数値目標を達成している場合

Ｂ：数値目標は達成していないが、数値が前回（平成 25（2013）年度）と同じか、目標に近づいている場合

Ｃ：数値が前回より低い場合

数値目標については、上記のように、31 項目のうち、Ａ評価が４項目、Ｂ評価が 12 項目、Ｃ評価が 15 項目となっており、「歯の健康」「こころの健康」では改善が進んでいますが、「からだの健康」「食の健康」では、改善が十分ではない結果となっています。

「からだの健康」では、飲酒、がん検診、メタボリックシンドロームに関する項目が前回よりも低い結果となっています。また、「食の健康」では、自分に適した食事量を知っている人や栄養成分表示を見る人などの割合が低下しています。

３　今後の方向性の概要

少子高齢化の進行や、介護保険の要支援・要介護認定者の増加、また、高齢者夫婦のみの世帯や高齢者単身世帯が増加している現状などから、介護予防のためのフレイル（虚弱）[注]対策の取組が必要となっています。また、死亡原因の上位を占める生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組が必要です。

しかし、数値目標から見ると、生活習慣病の発症予防や重症化予防に関する対策で十分な効果

が現れていない部分があります。

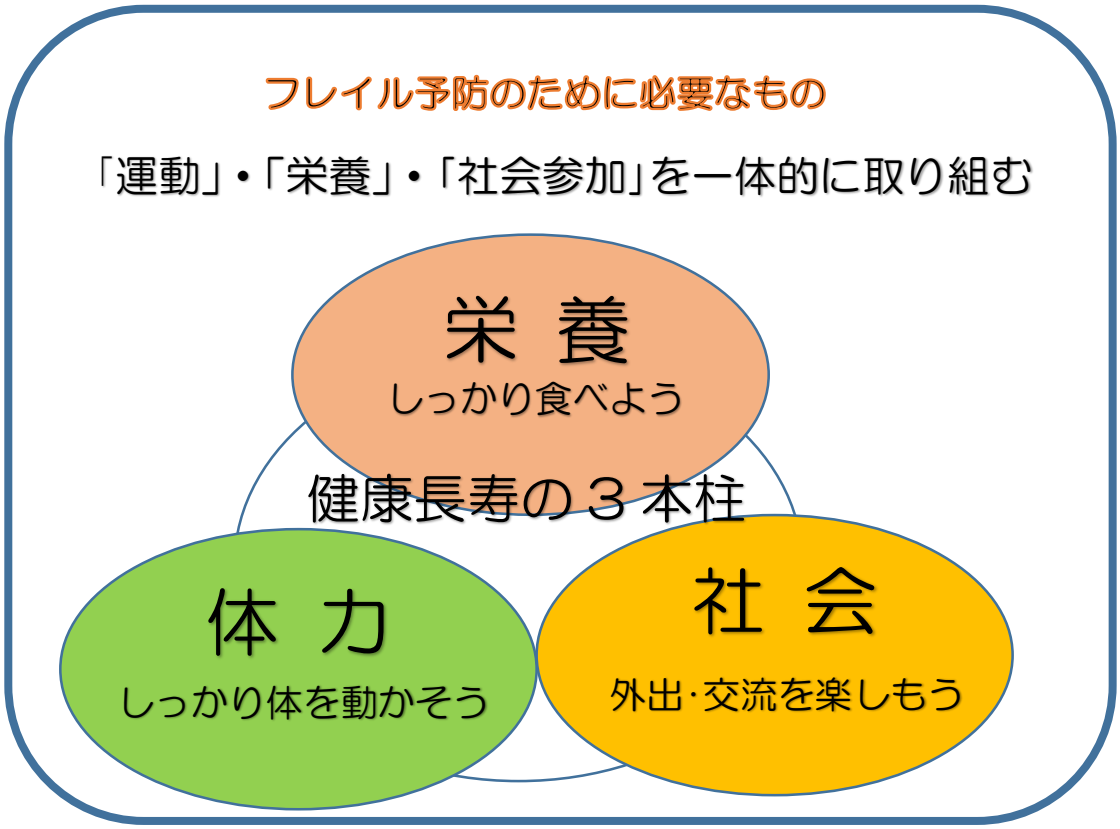
アンケート調査の結果や、事業実績などから改善が見られなかった項目については、数値目標達成に向けての取組を強化します。数値目標を達成できた項目については、更に改善を目指します。

具体的な対策では、4つの分野のうち、目標達成が少なかった「からだの健康」と「食の健康」の２つの分野を中心に対策を強化します。

「からだの健康」については、がん検診等の受診率の向上など、疾病の早期発見や生活習慣病の発症予防や重症化予防を強化していきます。特に、「運動」に関することを重点目標に掲げ、生活習慣病やフレイルの予防に努めます。

「食の健康」についても、食育への関心を高め、減塩やバランスの良い食事を摂ることで食生活の改善を図ります。

また、今回新たに加えたアンケート項目等により、数値目標の追加や、自殺予防対策に係る項目を加え、必要な施策を実施します。

注　フレイルとは、加齢に伴い筋力や心身の活力が低下し、健康障害を起こしやすい状態で、介護が必要となる前段階のことをいう。食の改善や運動等の適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態像をいう。

（参考　厚生労働省研修班　長寿科学総合研究事業報告書）